

研究機関、国際化学物質安全性計画、ラマツチーニ協会、国際社会保障協会、国際労働機関、(欧州)上級労働監督官委員会、及び、もつと多くの国際的な信用がありアスベスト産業から資金をもらっていない独立組織などの独立した科学的団体の意見に頼ることとしたい。彼らは、アスベストの使用は危険であり人間をアスベスト禍から守る最善の方法はアスベストを禁止することであるとということに合意している。」

パキスタン

パキスタンでは、輸入及び国産のアスベストの両方による広範な汚染が、公衆と労働者の健康を危険にさらしている。^{*} ペシャワール大学の地質学者ノア・ジーン博士によつて数年間にわたり実施された、様々な保管場所、採掘場、工場、住宅地域からの地質、大気、及び製品のサンプル採取を含む広範な分析は、全てのサンプルが次のアスベストを含んでいるとして次のように述べている。

「吸入可能なタリソタイル、トレモライト及びアンソファイライトの異なるタイプ。曝露レベルは、WHO及びOSHA^{**}によつて規定されている屋内及び屋外における許容曝露限界よりも数百倍、数千倍高い」。

アスベストを使用する小規模製造所の近くに住んでいる、またはアスベストがむき出しのドア、窓、壁板の家に住んでいる住人、そしてアスベストのテーブルやその他の家具を使用している生徒や教師、さらにはアスベストのベッド・サイド・テーブル、執務用テーブル、または波型シートが使われている病院の患者やスタッフは全てリスクにさらされている。ペシャワールの主要なマーケットで売られている、アスベストを八〇%含んでいる小さな加熱板を使用している消費者や、工場や採掘場

* [原注46] 2000年から2004年の間に、パキスタンのアスベスト消費量は1,590トンから 9,170トンへと4倍以上増加した

** [原注47] OSHA: Occupational Safety and Health Administration, U.S. 米国労働安全衛生庁